

山に生えた君の椅子。

「君の椅子は、山に生

えているんだよ。

君の椅子は山に生え

た切り株だ。山で生

きているんだよ。

だから、周りの木々

が病気になったり、

おひさまが届かなく

なったら、死んでし

まうかもしれない

し、新しい枝が生え

てきて、また違う形

になっていくかもし

れない。

君の椅子は生きてい

るからね。

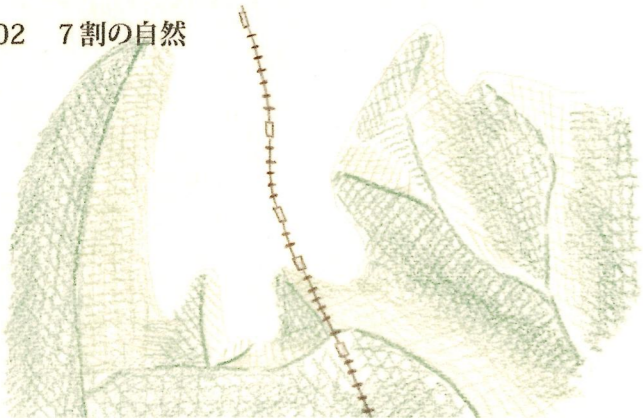


001 山をプレゼントする



山に生える切り株を家具としてプレゼンとする。山に行かないと座れないし、使えない。もはや山をプレゼントする。山は子どもたちにとって暮らしから遠い場所ではなくなっていく。

002 7割の自然



河内長野市はその7割が山などの自然で覆われている。木材が多く取れるのは、特徴のひとつでしかない。生きた自然でしか感じることのできないものを提案する。「山を持つ」魅力を見つめ直す。

003 間伐材を使う



山と人が共存するために必要な間伐作業でできる切り株を、自生する子どもたちの家具としてプレゼントする。間伐作業を通して、山の営みや、呼吸を感じることができる。

004 成長して成長する木育



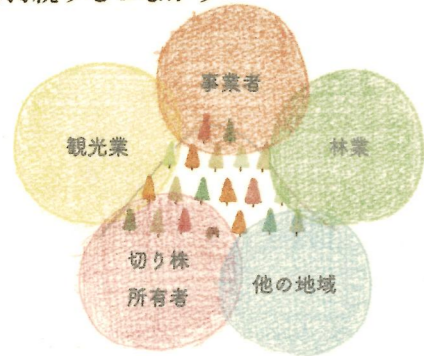
切り株は生きているので、持ち主とともに成長する。季節や年月で常に変化していくので、どういふ風に育っていくかは、持ち主の手入れや場所によって違う。もちろん大人になっても成長を見守ることができる。

005 ツアーとしてプロダクト



プロダクトデザインは、椅子ではなくツアーとして提案する。林業体験や、山歩きそのものがプレゼントの一部になる。木の形と、間伐する際の鋸入れ具合で家具のデザインは決まる。

006 山で持続するつながり



このプロダクトはたくさんの方が関係を持つことになる。椅子をプレゼントするだけでなく、作った場所でピクニックや音楽祭などもできるかもしれない。山と暮らしをもっと身近に感じたい。



▲ まずは、山について学んで、場所を探して、間伐して。



▲ リスやシカやクマなんかを使う。



▲ 大人になって見に来る。



▲ そしてまた、次の世代に。

「君の椅子は、君のモノでもあるけれど、山のモノでもあるんだよ。だから、ちゃんと見ていないと、すぐに君の手を離れてしまう。君がいない時、リスやシカやクマなんか君の椅子で休んだり、君のテーブルを使ったりするかもしれない。みんながここで楽しくお茶ができるように、素敵な場所にしておかないといけないね。君は、山の住人の一人になるんだね。」